

大臣 電信課長

大臣

次官

官

政務

通商

條約

情報

人事

會計

文書

條約實施

一〇暗 紐育発 大正九年七月 十五日 五五〇

内田外務大臣 熊崎総領事

牛一七八号

帝に施政下ニ於ケル朝鮮人生活ノ実状殊ニ学校教育ノ實際ヲ示スベキ字真表送附ヲ得タク右種ノ字真ハ總督府施政ニ適スベキ同字真原板至急送附方以配慮ヲ請フ尚右字真ハ人物多ク

其表情鮮明 ナルヲ可クス

左米大使、暗号、儘郵送セリ

秘密

第 3 月 第 1 號

文書課長

大正九年七月拾九日 接受

情報部第 2 部

大正九年七月十九日 起草

同 年 月 廿 日 附

機密送第四ノ號

主任 大正九年七月廿日 發送

別紙

主管

植原 次官
中田 外務大臣

朝鮮總督府第 14 號

東京出張員事務所長宛

水野 啓

朝鮮人生活狀態寫真ニ関スル件

在紐育熊崎總領事ノヨリ朝鮮事情ヲ

大正九年七月廿壹日記録第二部接受

米國ニ紹介スルノ目的ヲ以テ別紙ノ如ク朝

外務省

鮮人ノ生活狀態特ニ學校教育ノ實際ヲ

示スニキ寫真送付方依頼致未候ニ就

テハ右ニ関スル寫真至急取揃メ御返付

相煩度此段得貴意候也

(大正九年七月十五日着紐育發大屋宛電報第

一七八号寫送付)

朝鮮人生存ノ実状（帝王施政
 下ニ於ケル）^特 學校教育ノ実
 際ヲ隔スルキ寫真（中）付リ得タシ
 此種寫真ハ總督府施政年鑑
 中ニモおきノモノ有之^{おき} 補寫
 送スルモノ、原板送^付 附方呈名
 仰配者寫リ仰ケ者又右寫真ハ人
 物多ク且其表情鮮明ナルヲ
 可トス

外務省

11690

附類書

福

本正九年九月拾參日接受

文第三六八號

大正九年九月七日

報情第二部

朝鮮總督府政務總監水野鏗

外務次官 植原正直 殿

朝鮮人生活狀態ノ寫眞ニ關スル件

本年七月外二機密送第四八號ヲ以テ照會相成候朝鮮人生活狀態ノ寫眞
帖一部別冊及送付候也

追テ教育ノ實況ニ關スル寫眞六目下蒐集中ニ付不日送付可致候

Handwritten notes in Japanese, including a signature and date '1920.9.10'.



朝鮮總督府

修正

文書課長 大正九年九月十七日發

大正九年九月十七日起草
同 八年八月十八日附

大正九年九月十八日發送済

報 送第 一八 號

主任 具

内田外務大臣

主管 齊藤朝鮮次督

朝鮮ニ於テ教育關係写真

送附方ニ關スル件

我政府施政下、朝鮮ニ於テ如何ニ教育ヲ
業ノ發達セシカヲ汎ク米人ニ紹介スルハ對米

外務省

要再回

宣傳上頗ル有効ニ義ト思考被致候ニ就テハ
添附玻璃板原寫眞及ビ他ニ該目的ノ為メ使
用ニ得ル中寫眞數葉至急送附方法配慮
相煩々度高キ添附玻璃板七葉法用済
後送送方可然法取計ニ相成度有得貴意也

修正

淨書 校正 原綴

大正九年九月廿日 變
報 第二部

始 送
印 啓 朝鮮事情ヲ内外ニ紹介スル為別封
候也 印刷物刊行致候條御参考、為及御送付

進而右印刷物ノ外制度改正後一ケ年間ニ
於ケル施政ノ改善説明ニ関スル小冊子ヲ
近々刊行ノ見込ニ候條完成ノ上ハ更ニ
送付可致申添候

大正九年九月十四日

朝鮮總務 齋

外務省情報部 石下

55

文書課長



大正九年九月拾八日接受

海書校正

大正九年九月十八日起章
同 年 月 二十日附

有附屬物

大正九年九月廿日 發送

要再田部 送第一二〇號

主任

管情報部

早

主管

内田外務大臣

朝鮮總督宛

朝鮮人生活狀態ノ写真

送付方ニ関スル件

本件ニ関シ本年九月七日附文第三

外務省

六部ヲ以テ写真帖一部御送

付ヲ得候也右ニ總テ玻璃版ニ有

之從ツテ之ヲ写真ニ複製スル

時ニ画面鮮明ヲ欠キ或ニ米國

新聞雜誌社ニ於テ採用ヲ拒

絶スルヤモ知ラス斯クテハ折角

宣傳上ノ目的ヲ到達スルニ

於テ遺憾少ナカラストモ因テ

右寫真帖ニ記弭ヲ附スルモノ
三十七百ノ原寫真至急送付方
御配慮相煩ハシ度又九月十日
附報ニ送葉ニ弭ヲ以テ及御依頼
候朝鮮ニ於ケル教育実況ニ
関スルモノモ前述ノ次第ニテ同シ
ク原寫真ヲ必要トスル者ニ有
之為念申加一置候尚ホ本文
外
添付朝鮮寫真帖ハ御用済
後送送方可也御取計相煩
ハシ度此段得貴意候也

附屬書類添附

大正九年九月廿壹日 接受

非電信課

西郵

機密公信第四〇番

雙鷺三第課

附屬添附

籠井

大正九年九月十七日

在安東

領事代理領事官浦荒川克雄

在安東
浦荒川
克雄

外務大臣子爵内田康哉殿

候爵尹鐸榮、閣下電報

郵送、件

本件、閣下在支公使發本官宛電報第一
四號別紙、通リ暗号、候及郵送候条
御查收相成度此段申進候 敬具

在安東日本領事館

第3門

機密12021

機密12021

一二〇 暗 本署看

大正九年九月廿七日

内田外務大臣

荒川領事代理

在支公使茂本官宛電報第一四号

朝鮮へ左ノ通り

朝鮮總督府暗号ヲ取次ノ上 本電ハ暗号ノ儘

大臣へ郵送アリタシ

第一四号

候爵尹鐸榮氏ハ約ニケ月前當地来着ノ

外務省

當時貴官ヨリ本官宛^使紹介ノ名刺ヲ持参

来訪アリタルモ 其際ハ何等立入りタル談話無之

其後 候爵子息尹^ニ_ニ氏當館員ニ

對シ本邦銀行ニ紹介方依頼アリ 館員ハ正金

滙票ノ兩銀行ニ紹介シタルモ 是又何等纏リタル話

之ナカリシ由ナル處本月昔 同候爵来訪自今

當地ニ来タリシ目的ハ全ク家政ノ整理及相當

ノ実業ニ着手シテキ希望ニアリ 然ルニ當地ノ

事情ヲ調査スルニ実業方面ノ實際資本家
 ハ多クハ政界ノ有力者ニシテ此等ノ者ト往來シ
 關係ヲ^附連ル時ハ自分ノ身分ニ照シ世間ノ疑ヲ
 招ク惧アリ可成之ヲ避ケタキモ當地ノ実情ハ
 此等ノ者ニ近ブクニ非レバ実業方面ノ仕事出来
 ザルニ付キ此辺篤ト本邦官憲ノ諒解ヲ得置
 キ度ク又自分ノ朝鮮ニ於テ不動産及不動産
 ノ實價以下^格ニ^格相當ニ入り居んモノ等ハ整理シテ
 外務省
 之ニ對シ支那人方面ヨリ資金ノ融通ヲ受ケ
 相當事業ヲ營シ度キ趣ヲ諮リ之ニ對テ
 本官ノ意見ヲ聞キ且ツ助カヲ得キ旨申
 出テタルニ付キ本官ハ目下當地支那人方面ノ
 狀況ハ到底他ニ資金ヲ融通シテ事業ヲ
 營ム如キ餘裕ナカルベシト思考ス將又朝鮮
 ニ在ル其不動産等ヲ担保トシ支那人ヨリ融
 通ヲ受え下ノ可否^附一應朝鮮總督

ノ意嚮ヲ問合セム上ナラデハ何トモ意見ヲ述
ベ難キ旨各ヘ置テテリ 就テハ同候爵ハ近日當
方ノ回答同出アベシト存ニルニ付キ如何返答
シ然ルハキヤ貴府ノ御意嚮至急安東領事
經由暗号ノ電報ニテ回答ヲ煩ヒシカシ

外務省

附屬書類添附

2362

2362

大正九年十月廿五日接獲
學第一〇六九號

大正九年十月十九日

朝鮮總督府政務總監 水野 鍊

外務次官 植原 正直 殿

朝鮮ニ於ケル教育關係寫真送付ノ件

本年九月十八日附報二送第一一八號ヲ以テ首題ノ件ニ關シ照會有之候處御希望ノ玻璃版七葉十四種ノ寫真中十二種(二種ハ原版破損)及外ニ朝鮮人教育ノ現況ヲ知悉シ得ヘキ寫真二十二種別記ノ通別便ヲ以テ及送付候條御查收相成度此段得貴意候也
追テ幾日モ朝鮮人ノ風俗慣習及特ニ朝鮮人教育狀況ノ寫真送付ニ關シ照會有之候處右寫真ハ教育狀況ヲ系統的ニ特寫ノ上近日發送致スヘク今回ノ分ト合セテ始メテ新統治下ノ朝鮮人教育ノ狀況ヲ完全ニ諒解致サルル事ト存シ候ニ付米國其ノ他ニ然ルヘク紹介相煩度尙御送付ノ玻璃版七葉ハ同便ニテ及返送候條爲念申添候

朝鮮總督府

記

- 一 玻璃版ノ原寫真
- 一 普通學校女兒ノ裁縫
- 一 普通學校女兒ノ機織實習
- 一 普通學校女兒ノ野外ニテ唱歌ノ練習
- 一 女子普通學校兒童朝ノ体操
- 一 普通學校兒童ノ自由遊戲
- 一 普通學校兒童ノ遊戲
- 一 普通學校兒童ノ校庭ニテ理科學習
- 一 同 理化ノ實驗
- 一 同 ノ算術學習
- 一 普通學校ノ朝會
- 一 同 兒童ノ体操
- 一 女子高等普通學校生徒ノコーラス練習

朝鮮總督府

農業學校ノ收穫	一
農業學校家畜試育狀況ノ一部	一
商業學校生徒商事取引實習	一
工業學校生徒ノ木工實習	一
高等普通學校生徒ノ体操	一
高等普通學校生徒ノロ―ハードル跳躍ノ練習	一
高等普通學校生徒ノ物理實驗	一
高等普通學校生徒ノ農業實習	一
高等普通學校校舍ノ一部	一
計	三十四枚

通紙

電信課長

甲

大正九年十月三日

情報部

情報部次長

平

飛文(印)

朝鮮信務局
水野昭道
内田外務局長
木東

電送第9299番
大正九年十月廿五日 午前七時十分發

要再回

平

貴府奈行英文
朝鮮施政年鑑
The

外務省

Annual Report on Reforms & Progress

in Chosen (Korea) 初号より最近刊出迄

各館部宛 事務報告 至急取添

御惠贈相状外に

送

主管換

情報部

機受14692

大正九年七月拾六日接獲

警署

第三課

附表未着

高警第三六一七〇號

警報部

商部

大正九年十一月十二日

朝鮮總督男爵齊藤 實



外務大臣伯爵内田康哉殿

朝鮮、現状紹介、關スル件

朝鮮、現状及昨年官制改正以來、狀況ヲ在外大公使ニ詳知ヲ願フ、時々即柄至極必要ノ儀ト存候間左記印刷物別途小包郵便

朝鮮總督府

以テ及御送付候條英米佛支及瑞西駐在帝國大公使館具、他適當ノ方面ニ御配付相煩シ度此段得貴意候也

記

- 一 朝鮮統治ノ方針 十部 ✓
- 一 官制改正後年間治安狀況 十部 ✓
- 一 間島於ケル不逞鮮人團ノ狀況 十部 ✓
- 一 間島不逞鮮人團ニ關スル書類 十部 ✓
- 一 朝鮮於ケル新施政 四十部 ✓
- 一 朝鮮於ケル宗教政策(英文) 四十部 ✓

朝鮮問題對 _ル 側面觀(英文)	四十部
朝鮮統治概要(英文)	四十部
寫真帖	十冊
上海在住 _不 達鮮人行動	十部
以上	

朝鮮總督府

文書課長 松原

大正九年十二月十九日 謹

海軍省 文書課 校正 原

大正九年十一月十五日 起草
同 八年八月 日附

別紙

有附屬物

陸軍省 陸軍部 主任 長

大正九年十二月廿日 發送濟

主任

内田外務大臣

轉送 送第 〇二 號

左 總 督 主 管

熊 本 總 領 事 宛

本 領 事 館 爲 真 送 附 件

會計課長

要再回

本件ニ於テ本領事館ニ於テ三三號ノ

以テ申越スルニ別添寫真大

外務省

小總計六十七枚送附並ニ同口査収

相成此般申進也

寫真ニ付送付

別添寫真目次

教育棟内之现状に於ては、私立淑明女学校三年
 生「ユリス」補習、私立淑明女学校二年生室内体操
 「私立淑明女学校」校舎、「米ノ」児童を培材学校
 並高等普通学校(私立)、「朝鮮人」児童を収容する
 普通普通学校、「長董」学校(朝鮮人)児童を収容する
 於ては、城知裡園之如く、速鉄、「南城」工業専門学校
 附属之女子傳習所(一年生)鑄造製作状況、「南城」公
 立高等女学校三年生「海軍」傳習所、「南城」公立高等女学校

「私立」珠算傳習所(同校舎)、「水原」農林学校(二、四、五、
 林業実習)、「同一年生」和苗植付、「高城」女子高等普通
 普通学校生徒「聯合」体操、「高城」女子高等普通学校
 二年生「美術」學習
 (二)各所「片踏」其他雜觀
 「地下」停車場、「高城」道廳新廳舎
 「在來」道廳舎、「水原」華虹門、「高城」福正門
 慶會館、徳音寺醫院、「密陽」山嶺南樓

⑦

(六) 林業 (大別)

一 昭和十一年 一 南野 林業

一 大正十一年 一 水原 林業

林業

林業

~~林業~~

附屬書類添附

大正九年十一月廿貳日接受

情報第三部

K10

附屬未着

34010號

文第三六八號

大正九年十一月十七日

朝鮮總督 男爵 齋藤

外務大臣 子爵 内田 康哉 殿



朝鮮人生活狀態ノ寫眞送付ノ件

本年九月二十日報ニ送第一二〇號ヲ以テ御照會相成候首題ノ件御返送相成候寫眞帖ニ記號ヲ附セラレタル三十七面ノ原寫眞及最近更ニ撮影セル教育狀況ノ原寫眞別紙記載ノ三十二葉及送付候條宣傳方可然御配慮相煩度及向答候也
追テ御返送ノ寫眞帖ハ御申越ニ依リ再ヒ及送付候也

要處

回覽

亞細亞局

情報第三部

朝鮮總督府

0332

REEL No. 1-0489

寫眞種類 (最近ノ教育狀況)

一 初等教育

1 京城公立普通學校

イ 聯合体操

ロ 一年生ノ日本語會話練習

ハ 三年生ノ農業實習

2 京城女子公立普通學校

イ 一年生ノ日本語發音練習

ロ 二年生ノ刺繡實習

ハ 三年生ノ遊戯

二 中等教育

1 京城高等普通學校

イ 二年生ノ英語學習

ロ 三年生ノ化學學習

ハ 鳥類標本室

2 京城女子高等普通學校

イ 聯合体操

ロ 二年生ノ算術學習

ハ 三年生ノ樂器練習

三 專門教育

1 京城工業專門學校

イ 校舍ト附近ノ鮮人民家

ロ 二年生ノ化學教授

ハ 三年生ノ藥品試驗

2 京城專修學校

イ 圖書室

3 水原農林專門學校

イ 一年生ノ稻植附

ロ 二年生ノ林業實習

四 實業教育

朝鮮總督府

朝鮮總督府

五 私立

- 1 開城公立商業學校
 - イ 校舎
 - ロ 二年生ノ珠算練習
 - ハ 三年生ノ簿記練習
- 2 京城工業專門學校附屬工業傳習所
 - イ 一年生ノ鑄型製作狀況
- 1 京城幼稚園
 - イ 園兒ノ遊戯
- 2 長薰學校 (校舎) 「舊式トシテ」
- 3 養成高等普通學校 (校舎) 「新式トシテ」
- 4 培材學堂 (校舎)
- 5 淑明女學校
 - イ 校舎
 - ロ 二年生ノ室内体操

- ハ 三年生ノ「コーラス」練習
- 6 書堂

- イ 外観
- ロ 生徒ノ學習

六 其ノ他

- 1 經學院
 - イ 大成殿
- 計 三十二葉

864

文書課長

①

本課長等月報目録

②

文書課長校正原

③

大正九年十一月十九日 起草
同一年十一月三十日 附

有附屬物

主任 文書課長

送第五〇五號

主任 内田大八

情報部長

主管

在英米佛独伊各大使

在英米佛独伊各大使 左

在英米佛独伊各大使 左

在英米佛独伊各大使 左

在英米佛独伊各大使 左

外務省

亞細亞局

要再回

在英米佛独伊各大使 左

在英米佛独伊各大使 左

在英米佛独伊各大使 左

在英米佛独伊各大使 左

左記

一 朝鮮統治の方針 一部

一 支那改正後の支那の状況 一部

一 尚島松元不逞鮮人團の状況

一部

一 尚島不逞鮮人團の肉を食すの類

一部

一 朝鮮の歴史を施政

二部

一 朝鮮の歴史を施政(某文)

(原案訂正)

二部

一 朝鮮の歴史を施政(某文)

二部

一 朝鮮の統治の概要(某文)

二部

一 寫真帖

一部

一 上海在位不逞鮮人の行動

一部

外務省

文書課長 松原

大正九年五月卅日附

録

大正九年五月卅日起章
同 年 月 日 附

教送第五〇六號

有附屬物

大正九年五月卅日 發給

内田 氏

情報部

主管

情報部第一部

要再回

朝鮮施政の参考
資料送付

朝鮮總督府より朝鮮
外務省

可成り参考あり此の如記を
資料送付せしむるに及
送付し得るに上り然利用
中記を参考とし得るに及

大記

一 朝鮮の新政
一 部

一 朝鮮の宗教政策(英文)
一 部

浄書 校正原

一、朝鮮問題の経緯と側面観 (英文) 一部
一、朝鮮政治の概要 (英文) 一部

外務省

REEL No. 1-0489

0338

在~~南~~行館在 在~~南~~通館在 在~~南~~環館在

在濟南總領事 在~~南~~通總領事 在香港總領事

在~~南~~アールセルス總領事 在~~南~~通總領事 在~~南~~蘭公使

在~~南~~長公使 在~~南~~通身知利、アールセルス公使

在~~南~~ミラソコトニ、~~南~~通身知利

認領



文書課長 松原

大正九年三月二日 日 接受

大正九年三月二日 發送済

大正九年十一月二日 起草
同 年 月 日 附

警報部 第三課

報 送 第 一 五 一 號

主任

警報部

主管

内田久川

田 覽

氣野 認 智 亮

亞細亞局

第三課

氣野 認 智 亮 宛
配 布 方 針

要再回

本件 閣下 宛付 丁二口 附 寫 書 覽

外務省

カニチ一七の号 貴行より送られたる
市販改教書は右の如く記載
仰別物 接到 后 直に 仰 指示
我公使館 以外 有るもの あり
之れ 公館 へ 送 付 する こと
随時 右 利用 する 配 布 可 能 否 伺 へ
及 洲 台 置 不 可 也 仰 示 有 否 貴
館 方 へ 以 口 申 上 せ 願 へ 也

附屬添附

天正拾年七月拾壹日 亞細亞局

第三課

附屬添附

21727

第二課

大正十年六月二十九日

五奉天總領事館通北分館

主任 本田

函部

外務大臣御爵内田康哉殿

大正十年參月 八日記錄係接受

鮮人各口及水田及別調查方之件

本件查報方之開シ南滿洲鐵道株式會社地方部勸業課長ヨリ照會越シ五月廿別表ニ通り遂取調及回答置云条御参考迄全寫一部及送附候故具

在安東日本領事館通化分館

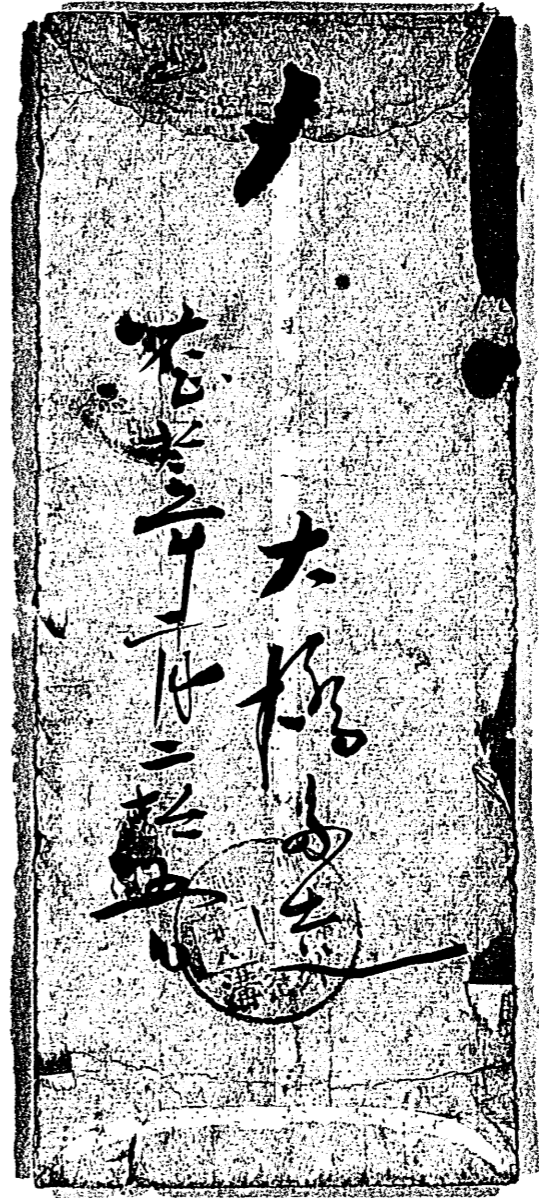
在安東日本領事館通化分館										水田調査表										
地名										地名										
三標榆樹	英穀布	通北金平伏路東街上	大都嶺	蛤蜊塘	堤塌溝	破蜂	快太子子	蛤蜊河	通北大廟溝	香油坊	厚夫溝	龍歌	高力亭子	下洞	歌道溝上洞	三道溝	江甸子西甸子	金廠卡	通南三道溝南溝	地名
二〇五	一五	一四〇	九二	九二	三〇	四八	二五	三〇	九五	一五	一七	五八	二四五	四九六	二三五	七	四一一	八	地名	地名
三〇七五	三二五	二一七五	一三八〇	一三五〇	四五〇	七二〇	三七五	四五〇	一四二五	二二五	二五五	八六〇	七四五	七四四〇	三五二五	一〇五	六一六五	一二〇	地名	地名
地名	地名	地名	地名	地名	地名	地名	地名	地名	地名	地名	地名	地名	地名	地名	地名	地名	地名	地名	地名	地名
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	六	一五	九	一	地名	地名

通化縣通化分館
 第一〇四號附屬



REEL No. 1-0489

0346



REEL No. 1-0489

0347

普通 245 12.8

亞細亞局

第三課 朝野新聞

小生昨秋土産物視察ノ後、通化地方ノ土産、折、通化在任民、状況視察ノ結果、在、仰、通化在任民ノ救、七戸職業、某、兼、雜、貨、為、送、了、出、り、ヤ、其、中、実、如、昨、秋、帝、心、古、志、ノ、取、端、嚴、格、志、古、ナ、由、我、送、走、道、ノ、杜、絶、セ、ラ、シ、改、且、近、ク、學、校、ニ、在、リ、子、供、一、時、退、校、ト、シ、テ、悲、慘、ナ、ル、状、態、ト、シ、テ、已、チ、ナ、ラ、ス、正、出、ノ、心、練、ヲ、強、ク、訴、可、証、ヲ、獲、得、シ、付、キ、テ、討、シ、六、月、以、日、特、業、ヲ、命、セ、ラ、シ、實、ニ、彼、等、ノ、苦、途、憂、慮、セ、ラ、レ、シ、ヲ、特、業、ノ、任、務、ノ、一、人、任、能、經、験、資、金、ノ、三、四、題、ノ、出、サ、サ、シ、テ、資、金、ト、シ、テ、日、下、各、自、ノ、志、願、ガ、復、等、ノ、資、金、過、ズ、他、方、

而、ラ、觀、察、ス、ル、ニ、其、町、由、於、大、都、会、公、民、上、海、五、年、北、京、漢、口、ニ、於、テ、ス、ラ、公、民、ノ、秘、密、ト、シ、テ、日、去、セ、ラ、レ、況、ヤ、通、化、ノ、不、却、落、ニ、於、テ、ラ、ヤ、以、新、ノ、嚴、重、ナ、ル、取、締、メ、ト、大、キ、ト、シ、テ、不、益、ヲ、減、少、シ、ホ、シ、テ、ハ、各、人、ノ、影、響、歎、ク、有、称、也、ト、シ、テ、説、支、那、古、志、ト、折、合、ハ、心、ヲ、復、滿、ニ、シ、テ、殆、ト、十、餘、年、官、官、少、シ、苦、情、ナ、ク、厚、觀、迎、シ、テ、之、ヲ、行、フ、

昨、秋、支、那、古、志、夜、留、在、任、民、ノ、志、ハ、孔、子、ノ、調、函、夫、專、ラ、野、行、シ、殊、ニ、事、ノ、如、キ、款、面、ニ、重、傷、ヲ、負、ク、申、付、ク、他、在、任、民、是、リ、見、兼、テ、飲、テ、飯、飲、言、語、長、短、ハ、猶、昔、ノ、如、ク、經、過、シ、テ、復、新、不、ト、シ、テ、

悲惨なる状態に陥り、已にナラズ正當なる
法に経て済む可証の獲得に依りて、討し六月
以後、轉業の命せらるる彼等、前途憂慮
せらるるに、轉業の仕方、一人、技能経験
資本の三問題に依りて、資本の多寡や
曰下各自、若くは彼等、資本の過ぐ他方

而る觀察に、支那の大都を上海天津
北京漢口に於て、公認の秘密トシテ、日去せし
況や、通作の却落に於て、や、少額の嚴重たる取
締り、大に、小益の減少、小に、各人の影
響、歎に、有称の、支那の支那古志ト
折合、心、國滿、に、殆ど、十年、官少、
甚、甚、たる、厚、觀、迎、り、文、ツ、信、し、り

昨秋、支那古志、夜、留、在、任、民、者、此、下、の、調、函、夫
專、の、影、打、の、殊、事、の、如、き、顔、面、の、重、傷、を、受、け、
中、日、を、他、在、任、民、是、の、見、兼、に、致、る、敏、敏、言、語、
長、長、の、猶、告、に、依、り、經過、の、故、に、支、那、不、ト、シ、テ、
是、の、知、ん、を、ナ、ラ、長、日、の、被害、夫、任、者、の、任、地、
が、思、い、から、在、中、の、轉、任、セ、ヨ、ト、一、寒、心、に、支、那、の、
地、於、て、冬、季、の、轉、任、ト、言、ふ、事、ト、シ、テ、官、の、言、語、
同、部、の、支、那、の、地、於、て、何、事、も、長、時、間、大、
に、支、那、の、地、於、て、何、事、も、長、時、間、大、

附屬書類添附

亞細亞局

第三課

高 敬言 第一二〇四號

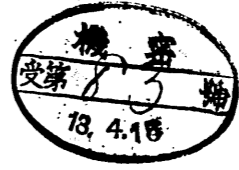
大正十三年四月十一日

朝鮮總督府 敬言務局長

一級(在房)

綴込名在解人ニ對シ施以

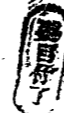
角



1
5
3

内務大臣 殿
外務大臣 殿
警務局長 殿
警視總監 殿
拓殖事務局長 殿
各廳府録事 殿
軍司令官 殿
憲兵隊司令官 殿
關東廳警務局長 殿
各道知事 殿

各派遣員 殿



震災後歸還朝鮮人ノ道別及存歸別
調査別表ノ通御参考迄及送付候也

多休

自大正十三年一月一日歸還鮮人道別調査 警務局
至大正十三年三月三十一日

道別	道別		計
	留學生	労働者	
京畿道	二九五	一、一六二	四六二
忠清北道	八二	八八〇	七七
忠清南道	一五六	一、三九七	一、九四四
全羅北道	一八二	一、六一一	一、三六
全羅南道	二七九	六八二	五一七
慶尚北道	三四五	一、二〇四	一、五四九
慶尚南道	四〇〇	二、八三四	一、三五六
黃海道	一三三	五七一	五九
平安南道	一七〇	六四四	一四五
平安北道	一二一	三三五	三三
江原道	四九	七八七	八一
咸鏡南道	二二六	四三〇	五二
咸鏡北道	六二	二〇一	二三
計	二、五〇〇	四、八八六	三、七九三
			五、五一六

自大正十二年九月一日
至大正十三年三月三十一日
歸還鮮人府縣別調査

警務局

府縣別	府縣別調査				府縣別	府縣別調査			
	學生	勞働者	其ノ他	計		學生	勞働者	其ノ他	計
北海道		二五五	二四	二七九	三	一七九	一四	一九三	
東京府	三〇二七	四六一三	三七〇	七〇一〇	一一	一七四	一四	一八七	
京都府	一五〇	二七七八	二五七	三二八五		七三三	四七	七八〇	
大阪府	六四	七〇三一	八三一	七九二六		二二四	八	一三二	
神奈川縣	三二	六九〇	五六	七七八		一七三	一一	一八四	
兵庫縣	三四	三九八〇	二四六	四三六〇	三	一六二六	五四	一六八〇	
長崎縣	一	六一〇	五二	六六三		二二〇八	一〇五	二三一二	
新潟縣		一三三五	六一	一三八六	二	二〇	一	二一	
埼玉縣	二	三三	一	三六		一三九	一〇	一四九	
群馬縣	二	二一一	四	二一七		八		八	
千葉縣	一	七五	二	七八		三三	一〇	四三	
茨城縣		六七	六	七三	八	四三	一	五二	
栃木縣		九三	七	一〇〇	四	二四	二五	二三	
秋田縣	二六		四	三〇	二	六五	六	七三	
福井縣	一四七		三	一五〇	一六	五八六九	三八八	六二七三	
石川縣	六六		一	六七	一	九三八	六一	一〇〇〇	
富山縣	三九三		二〇	四一三	一	二八五	一四	二九九	
鳥取縣	一二六		一	一二八	三	四〇一	一七	四二一	
島根縣	二六〇		九	二七〇		七一	三	七四	
岡山縣	一〇	九五六	五二	一〇一八		九八	三	一〇三	
廣島縣	二六	二三九	五七	三三二					
山口縣	七一	七五七四	四六六	八二一一		一	五	六	
和歌山縣		二五六	三二	二八八		四〇	一一	五一	
徳島縣	一	六二	二	六五		二二	七二	一四	
香川縣		六三		六七	二五〇	四八八六九	三七九三	五五一六二	
奈良縣	二	二五七	二六	二八五					
合計									

機密
第 97 號
13. 4. 29

1
5
3
項
號

第三課

送込名 朝鮮人モ對シテ
朝鮮總督府警務局

大正十三年四月廿三日
亞細亞局
高橋章第一三八二號

同民會創立總會並發會式ノ狀況關スル件

亞細亞民族ノ結合内鮮ノ融和及思想ヲ善導等ヲ
目的トスル同民會ハ内鮮官民七百名ノ賛助ヲ得
テ四月十五日午後二時ヨリ京城公會堂ニ於テ創
立總會及發會式ヲ舉行セリ其ノ狀況左ノ如シ

左記

參會者二百八十名創立委員長北條時敬病氣缺
席ノ爲佐藤虎次郎代リテ挨拶アリ續イテ有賀
光豊ヲ座長ニ推シ總會ニ入り佐藤虎次郎ノ經
過報告アリテ別紙添付ノ趣旨及規約ノ議定ニ
ハルヤ東京ヨリ臨席セル佐々木清麿外數名ヨ

リ同會趣旨書ノ字句及規約ノ内容ニ付キ二三
ノ質問アリタル後高橋章之助ノ動議ニ依リ評
議員ノ任命ヲ有賀座長ニ一任シタルニ依リ座
長ハ佐藤虎次郎高橋章之助韓相龍李軫鎬及申
錫麟ヲ詮衡委員ニ推シ詮衡ノ結果評議員五十
二名ヲ發表セリ次テ評議員會ヲ開キ左記ノ通
理事會計監査常任理事監事顧問及相談役ノ役
員ヲ推薦報告セリ以テ後發會式ニ移リ會長
北條時敬代理トシテ廣島高等師範教授藤井種
太郎ノ祝詞朗讀アリ續イテ有賀政務總監京畿
道知事京城府尹京城商業會議所會頭李三職長
官李完用侯朴泳孝侯韓相龍及國民協會會長金明

濬加藤高明外十數通ノ祝詞代讀又ハ朗讀アリ
齊藤總督(出張中)外三十餘通ノ祝電披露アリ
テ午後四時二十分終了閉會セリ尚午後七時
五十分ヨリ公會堂ニ於テ宣傳講演會ヲ催シ左
ノ順序ヲ以テ夫々講演アリ
一開會ノ辞 佐藤 市次郎
一主 德 藤井 種太郎
一 同光會、根本精神、高島 半三郎
一 東亞民族根本精神、國 府 種 德
聽衆内鮮人智識階級約三百名ニシテ午後十一
時二十分無事閉會セリ
發送先

内務大臣 外務大臣 内閣書記官長 拓殖事務局長
警保局長 警視總監 各廳府縣長官
各道知事 東京出張所長 各派遣員

同民會役員氏名

會長 北條時敬

副會長 男爵李載克

顧問 同公爵德川家達子爵波澤宗一 侯爵李完用

侯爵朴永孝伯爵李秉暎

相談役 野中清

宮岡直記

尾崎教義

秋月左都夫

牧山耕藏

劉猛

香榊源太郎

趙鎮泰

理事

富田儀作

谷多喜磨

有馬純吉

前田昇

松山常次郎

佐藤虎次郎

申錫麟

李炳烈

渡邊彌幸

高山孝行

方奎煥

中村建太郎

高橋章之助

大村友之丞

李範昇

劉中村建太郎

釘本藤次郎

大和興次郎

荒井初太郎

元真常

曹秉相

李軫鎬

全聖旭

李并鉉

山岸當雄

李軫鎬

全聖旭

李并鉉

杉一郎

永井啓

赤木萬次郎

藤井寛太郎

申應熙

足立文次郎

朴承稷

金漢陸

渡邊定一郎

張斗鉉

有賀克豊

岡大植

執行猪太郎

佐瀬熊鉄

澤村亮一

堀内滿輔

金漢奎

柳一宜

思巴銅吉

劉海鐘

住井辰男

工藤武城

吳允迪

李元錫

蔡基斗

高義駿

吳允迪

李元錫

小林源六

朴東奎

吳允迪

李元錫

大村百藏

小杉謹八

吳允迪

李元錫

監事

河中山樂三

韓相龍

評議員

渡邊彌幸

佐藤虎次郎

申錫麟

李炳烈

高橋章之助

高山孝行

方奎煥

中村建太郎

釘本藤次郎

大和興次郎

荒井初太郎

元真常

曹秉相

李軫鎬

全聖旭

李并鉉

山岸當雄

李軫鎬

全聖旭

李并鉉

杉一郎

永井啓

赤木萬次郎

藤井寛太郎

申應熙

足立文次郎

朴承稷

金漢陸

渡邊定一郎

張斗鉉

有賀克豊

岡大植

執行猪太郎

佐瀬熊鉄

澤村亮一

堀内滿輔

金漢奎

柳一宜

思巴銅吉

劉海鐘

住井辰男

工藤武城

吳允迪

李元錫

蔡基斗

高義駿

吳允迪

李元錫

小林源六

朴東奎

吳允迪

李元錫

大村百藏

小杉謹八

吳允迪

李元錫

同民會創立趣旨

極東の天地は日に益々多事ならんとす日本國民は極東の文化を促進し世界の平和に貢献すべき天職を有す協心同力の必要今日に於て最も切なり居る朝鮮半島に占むる者或は先祖以來此に住せるあり或は近年に至りて移り来れるありと雖共に日本國民たるの自覺を有せざるへからず日本國民は東亞に於ける先進者なり日本國の盛衰隆替は實に東亞全体の運命を左右するものなり吾人の責たるまた重からずや
彼の歐洲の大戦乱は數年の前に於て終熄せりと雖列強競争の形勢は更に緩和せらるる所なし列

強の競争は財力と智力と學力との競争なり其の財力を富まし其の智力を盡し其の學力を示すへき最好の地として列強は何れも眼を吾が極東に注けり極東の天地は必ずや列強競争の中心と化し去らざる能はず此時に當りて能く列強の間に介在し正義の主張を枉げずして能く彼等を牽制し永遠の平和を維持するに努むべきもの吾が日本國民を措て之を他に求むるを得んや日本國民は此の大事に當り能く其の責を果し其の任を全うするによりて以て自己の實力を世界に示すべきなり
朝鮮半島は實に極東の咽喉なり彼の列強と吾が

日本國との接觸に於て之が關門たるべき地位に在り此の半島に住する者は同文同種の民にして今や共に日本國民たり共に日本國民としての光榮を分ち又日本國民としての責任を分つべき者なり然るに内は融和の實未だ全かりずして動もすれば徒に感情に趁せて互に相離反し反目嫉視せんとする傾向あり外は矯激浮薄の思想澎湃として迫り將に我が臣民の東洋思潮を蠱毒せんとするあり茲に於て其の結合を堅うし互に相砥礪し相扶持して勤勉努力の風習を剛健誠實の氣象を養成し以て百年の大計を樹つるは洵に今日に於ける急務なり況んや這次關東地方の今古未

曾有の大災害は實に我國民の大試鍊にして正さに凡ての過去の迷想を一掃し清新の意氣と勇猛の努力を傾注し改造復興の業に勵まざるべからざる秋に於ておや某等不敏と雖此に感ずる所あり江湖有力なる諸君子の指導を得て同民會を創立し左記綱領により聊か献替の一助たらしめんす幸に微衷の在る所を察し方を本會の發展に盡さるる志士仁人多からば何ぞ獨り某等の慶のみならん亦實に邦家の大幸たるべき也

綱領

一 亞細亞民族結合の基調として内鮮融和の徹底的實行を期す

一、質實剛健の氣風を養ひ輕佻浮薄の思想を排す
 一、勤勉力行の風習を興して放縱情弱の弊を戒む

發 起 人

同 民 會 規 約

- 第一 事業
- 一、本會ハ左記綱領ヲ達成スルヲ以テ目的トス
 - イ、亞細亞民族結合ノ基礎調トシテ内鮮融和ノ徹底的實行ヲ期ス
 - ロ、質實剛健ノ氣風ヲ養ヒ輕佻浮薄ノ思潮ヲ排ス
 - ハ、勤勉力行ノ風ヲ興シテ放縱情弱ノ弊ヲ戒ム
 - ニ、本會ノ目的ヲ達スル為左ノ事業ヲ行フ
 - イ、講演會講習會活動寫真會等ヲ開催スルコト
 - ロ、會報ヲ發行シ必要ニ應シテ文書ヲ刊行スルコト
 - ハ、綱領ノ本旨ヲ實現スル為特ニ朝鮮ノ美風良

俗ヲ闡揚シ文化ノ促進生活ノ向上ヲ圖ルコト
ニ必要ニ應シ各種ノ調査ヲナシ公表スルコト
ホ各種ノ修養団体ト連絡シ其ノ發達ヲ援助ス

ルコト
其ノ他評議員會ニテ決議シタル事項
第二 名稱

一本會ハ同民會ト稱ス

二本會ノ事務所ハ京城府ニ置ク

三必要ニ應シ地方ニ本會ヲ支部ヲ設置ス

第三 經費

一本會ノ經費ハ基本財産ノ利子基本資産ニ屬セ
サル有志ノ寄附金及會員ノ會費ヲ以テ之ヲ支

辨ス

第四 役員

一本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長一名 副會長一名 理事七名(内三名ヲ常務理事ト

ス) 評議員二十五名

ニ必要ニ應シ本會ニ總裁副總裁ヲ推戴シ又顧問

ヲ置クコトアルヘシ

三評議員ハ本會ノ發起人中ヨリ互選ス缺員アリ

タルトキハ評議員會ノ議ヲ經テ之ヲ補充ス

四會長副會長及理事ハ評議員會ニ於テ推薦ス常

務理事ハ理事會ニ於テ互選ス

五支部ノ役員及組織ハ評議員會ノ議ヲ經テ別ニ

之ヲ定ム

六、理事ノ任期ハ二箇年トス但シ重任ヲ妨ケス

第五 會員

一、本會ノ會員ヲ分チテ名譽會員贊助會員特別會員正會員トス

二、本會ニ功勞アル者又ハ徳望アリテ本會ノ趣旨

ニ賛同セラルルモノハ評議員會ニテ推薦

シタル者ヲ名譽會員トス

三、本會ノ趣旨ヲ賛同シ且時金一百円以上若ハ一

ケ年間月賦ニテ十円以上又ハ五箇年賦ニテ三

百円以上ヲ寄附スル者ヲ贊助會員トス

四、本會ノ趣旨ヲ賛同シ毎年會費拾円ヲ納ムル者

ヲ特別會員又會費二円ヲ納ムル者ヲ正會員ト

ス

第六 會議

一、會議ヲ分チテ理事會議評議員會議トス

二、理事會ハ會長隨時之ヲ招集シ會務ヲ協議ス

三、評議員會ハ定期(月)若ハ臨時ニ會長之ヲ招集

シ必要ナル事項ヲ決議ス

了